

テスト事例 1 (直接内容準拠評価)

分野：中学校地理的分野

単元：「大型スーパーは地域を救う救世主か？

破壊者か？：フードデザート問題を考える」

(実践事例は、全国社会科教育学会編『社会科教育学実践
ハンドブック』 pp.97-100)

※社会論争問題としてのパフォーマンス課題

【単元の学習内容(前提となる授業)】

学習課題：私たちの暮らす旧産炭地に、大型商業施設は必要か。

1 居住地及び近隣市町村の商店街の調査

(現状把握, 分析)

2 他県・他地域商店街, 他国の事例調査

(フードデザート概念)

3 1, 2 を踏まえた上での意思決定

(誘致の是非についての判断)

【問題の設定状況】

- ・ 解答者は A 市に居住する市民。
- ・ A 市郊外に「大型ショッピングモール誘致」の是非を問う住民投票実施の予定。
- ・ それに先立ち、公開討論会に出席している。

※解答に伴う「誘致の是／非」の選択は評価の善し悪しには影響しない。

【問題事例(一部抜粋)】

(3) B さん(誘致反対の立場)の主張に続いて、あなたが発言することになりました。「誘致賛成」、または「誘致反対」のいずれかを選んだ上で、次の資料 2 ～ 5 の内~~~~~の一つ以上の資料を用いて、その考え(あなたの主張の内容)を説明しなさい。その際、B さんの意見に触れる(引用、批判、妥協など)こと。

◎ 関連性・他者性・状況性の全てに対応。

【ループリック・アンカー事例】

尺度	想定される事例（アンカー）（以下は「誘致賛成」を選択した事例）
3	私は、誘致には賛成です。ただ確かに、誘致の結果、Bさんの言うように社会的に弱い立場の方に影響が出るということは避けなければなりません。このことに関しては、誘致によるメリットから、次の想定により、解決可能です。資料2のように近年の大型スーパーは賑わいを見せており、A市財政に余裕が生まれる。資料3のように、我が国の行政の多くは、これらの方々に、自動車による移動店舗への補助、空き店舗だらけになった商店街の減免税措置など、何らかの支援をすべきことを自覚している。よって、財政的余裕が生じれば、それら支援を実現することも可能となります。 ※基準：複数の資料を内容に即して適切に活用して主張している。また、Bさんの主張を取り上げ、引用・批判・妥協等の関わりから、自己のオリジナルな主張(解決策)を展開していること。
2	私は、誘致には賛成です。なぜなら、資料3で市町村が必要と考えているサービスが実行されることで、Bさんの心配するような影響は解決できるからです。特にその上位には、路線バスの運行・支援や宅配サービス支援、買い物ボランティア、代行等の紹介・支援のように、郊外のお店で生鮮食料品を手に入れることをサポートするサービスが挙げられています。私たちの住むこの市には、目玉になるような大きな施設が必要なのです。すでに、多くの自治体がこのようなプランをもっているのですから、あまり心配する必要はありません。 ※基準：一つの資料を活用した主張である。Bさんの意見に関わって自己の主張(解決策)を展開しているが、双方の意見を踏まえた発展的な提案までは述べられていない。
1	私は、誘致には賛成です。資料5で中心部は激減しているのに、郊外の人口はモールができたことで増加していることがわかります。私たちの市全体で考えると人口が増えることは絶対にメリットだと思います。 ※基準：自らの立場、主張は示されているが、資料が適切に活用できていない。(誤った読み取りをしている。)Bさんの意見との関わりが明確でない。

【本問題事例の位置づけ】

※特に重視されるものに 限定して示した。		パフォーマンス評価の枠組み		
		原理と 一般化	本質的な 問い	永続的 理解
社会科の 枠組み	関連性 ：係わり	フードデザート 概念や他地域の 事例に基づく説 明，予測。		
	他者性 ：関わり		誘致の是非をめぐる判断に関わる規範的な問い。（対立／合意）	誘致の是非について他者への説得的説明を前提とした理解。
	状況性 ：拘わり		誘致をめぐる何らかの合意形成に向け，他者の意見をもとに議論を促す。	